

令和4年度学校だより

学校教育目標 自主 責任 明朗



六中だより 3月号

開校43年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：657名



一人一人が有終の美を飾るために
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

学校周辺の梅の木々が花を咲かせ、日増しに春の訪れを感じさせてくれています。それと同時に今年度の終わりが近づいてきました。今年度をマラソンに例えるなら、すでにラストスパートに入って、目の前にゴールテープが見えているところでしょうか。令和4年度の学校生活のゴールは目前です。

生徒にとって、今年度はどのような一年となったのでしょうか。

振り返ると、思い出が多く思い浮かぶということは、その場所に、その瞬間に自分の気持ち、想いがあったということでしょう。言葉を換えれば、物事に主体的に関わったからこそ、思い出となって心に残っているとなります。一人でも多くの生徒が、一つでも多くの思い出を思い起こすことができれば、学校の教育活動が有意義であったともいえますし、そうであってほしいという、私共の願いでもあります。

そういった意味では、今年度の一年間は、三年ぶりの行事が多く見られました。3年生にとっても、中学校で初めてとなる行事です。具体的なモデルが見えない中での行事となりましたので、戸惑いがある中、手探りしながらのスタートとなりました。しかし、最終的には、心配は杞憂に終わり、生徒の力を再認識する場面を多く見ることとなりました。

『有終の美』という言葉があります。有終の美とは、「最後までやり通して成果をあげること」を言います。言葉を変えると、今、やり残しはしないというこ

とです。自分にとって何をやり通すことが『有終の美を飾る』ことになるのか。充実した一年だった。と胸を張っているためには、どうすればよいのか。今からでも間に合うようにするためには、これから何をすればよいのか。何か一つ、これは頑張った！というものを作ってほしいと思います。目に見えない頑張りも、もちろんあります。その変化に気づく目を、大人はもち合わせる必要があります。見ている人は見ている。そんなメッセージを出すのも大人の責任だと言えます。

学校で『有終の美を飾る』には、生徒たちは、この3月を自分のこともそうだし、クラスの仲間たちと、学年の仲間と、そして、学校という大きな枠組みの中で、できることをやりきってほしい。もちろん、私も含めた教職員全員もそこに意識を集中し、応援したいと思います。第六中学校は、その教育活動を学校の中だけで完結することなく、広く地域の声を聞き、共に歩もうと考えております。そのためにも、まずは、今年度の有終の美を飾る。私は、卒業証書授与式と修了式の生徒の姿で見届けたいと考えています。

そして、次年度の年度当初に、課題を踏まえた取組をしっかりと保護者説明会でお示ししたいと考えています。来年度も本校の教育活動に広くご理解と温かな眼差しをいただければ幸いです。

第六中学校は、「美しく 温かく 常に前進 第六中学校」を合い言葉に「有終の美を飾る」決意をもって、3月の教育活動を推進してまいります。